

平成31年度 学校自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

70

福岡県立三池高等学校長 印

学校運営計画				評価(3月)		
学校運営方針		県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。				
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
本校職員の生徒への丁寧且つ親身な指導が生徒の大きな成長につながり、学校としても学習指導、進路指導、生徒指導等において一定の成果を出すことができた。平成31年度は、大規模校舎改築が始まることを踏まえ、工事による教育活動への影響を最小限に抑えながら、教育活動の質の維持及びさらなる向上を目指す。		確かな学力の育成	学習指導要領の趣旨に基づいた授業を行い、確かな学力の育成を図る。また、学習指導要領の改訂を踏まえ、校内において新しい教育課程の編成に向けての取組に努める。			
		キャリア教育の充実	授業や学校行事等とおして、職業観・勤労観を育成し、自己の意思と責任で進路を選択させるとともに、その実現を目指して、課題を設定し解決に主体的に取り組む力を身に付けさせる。併せて、総合的な探究の時間の校内体制を整備し、その運用を図る。			
		生徒会活動の活性化、安全に対する意識の向上	学校の教育活動全般とおして、生徒が主体的に取り組めるような場や機会を設定し、その活動とおして自己指導能力を身に付けさせる。			
		地域・同窓生との連携	学区内の児童生徒数の減少に対応するために、広報活動及び生徒募集を強化し、本校の魅力や教育内容をより効果的に小・中学校や地域社会に発信する。			
項目	本年度の具体的目標		目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題	
教務班	□ 学力の向上		<input type="checkbox"/> 三高生らしい生活習慣とともに、自ら考え行動できる力を身に付けさせる。 <input type="checkbox"/> 自ら心と体の健康に留意できる態度を身に付けさせ、皆勤を目指して生活させる。 <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣の中に、それぞれの学年に応じた学習習慣を確実に位置づけさせる。			
	□ 学習指導の充実		<input type="checkbox"/> 3年間を見通した、指導計画、評価の観点を明確にし、見直しをもって生徒が授業に臨めるよう工夫する。 <input type="checkbox"/> ICT等の活用や言語活動の充実に根ざし、学ぶ喜びを感じることのできる授業を工夫する。 <input type="checkbox"/> 各教科で「思考・判断・表現」の観点到る問題を出題するようにする。			
	□ 主体的に学習に取り組む態度の育成		<input type="checkbox"/> 学力向上の重要性を認識させ、学習習慣の定着を図る。 <input type="checkbox"/> 家庭学習の大切さを理解させ、予習、授業、復習の定着を図る。 <input type="checkbox"/> 進路実現を見通した学力の向上と具体的な学習時間に取り組ませる。			
	□ 三池高校の活性化		<input type="checkbox"/> 生徒の学習意欲の喚起と新たな教育課程への編成	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領や大学入試共通テストに対応できる教育課程の編成に取り組む。		
総務班	□ 学校行事		<input type="checkbox"/> 各行事の計画を2ヶ月前から立て、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。 <input type="checkbox"/> オープンスクールについては、年間計画を立てるとともに、年度当初から実施内容に関して議論を深めることで、新たな取り組みが円滑にできるようにする。 <input type="checkbox"/> 各行事の業務分担割については、業務内容や担当分掌に鑑みて適材適所で配置するとともに、実施要項を1ヶ月前に提示し、計画的かつ円滑に運営できるようにする。			
	□ 広報活動の充実		<input type="checkbox"/> 中学生対象行事や中学校訪問、及び高校説明会を組織的に行い、生徒会や他分掌との連携を図ることによって、本校の魅力や生徒の主体的な諸活動を効果的に伝える。 <input type="checkbox"/> 熊本県北部在住の中学生に本校への進学を視野に入れてもらえるよう、PR活動を柔軟に行う。 <input type="checkbox"/> 広報紙及び学校案内は、生徒等の意見やアイデアを取り入れるなどして、親しみやすく目を引くようなものを作成し、中学生や地域の方々に向けて発信する。また、その際、正門・国道側掲示板やホームページの活用により、生徒の諸活動の様子を効果的かつ好時機に発信する。			
	□ 庶務関係		<input type="checkbox"/> 迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(諸会議の準備、巡視割等)	<input type="checkbox"/> 計画、準備を迅速かつ正確に行い、係員間の調整・連絡・協議を綿密にして実行する。 <input type="checkbox"/> 実施後の記録や文書(データ)の管理を確実にし、業務のスリム化に努める。		
	□ 関係機関との連携		<input type="checkbox"/> 各種会議の円滑な運営(父母教師会関係、同窓会関係)	<input type="checkbox"/> 父母教師会の諸行事が円滑に進むよう補佐する。 <input type="checkbox"/> 同窓会事務係との連携を図るとともに連絡を密にし、諸会議等が円滑に進むよう補佐する。		

項 目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
進路指導班	□進路研究・進路学習	□「総合的な探究の時間」及び「総合的な学習の時間」の計画的運営	□各学年の担当と学年との連携を密にした運営 □学部・学科研究による進路意識の高揚 □小論文指導や探究活動とおとした自己表現力の養成 □「志講演会」及び「出前講座」をおとしたグローバルな視野を持った人材育成		
	□進学・就職指導	□個に応じた第1志望進路の決定 ・国公立大学合格50名以上 ・公務員(就職)希望者合格率70%以上 ・西南学院大学合格のべ20名以上 ・福岡大学合格のべ80名以上 □面談及び個別指導の充実 □新しい入試制度への対応	□復習考査の充実(実施形態を検討し、効果的な運営を行う。) □小論文・面接指導の充実(職員が連携した指導を行えるよう状況を整える。) □受験校・就職先の綿密な検討(入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。年間2回の受験校検討会の実施する。就職希望生徒の個別対応。) □新しい入試制度の情報提供(メールや回覧などで全職員へ情報提供及び新調査書の準備。)		
	□模擬試験	□全学年 11月進研模試総合(1,2年生は国数英、3年生は5教科総合) 平均偏差値50以上 □学力の2極化の解消及びその対応	□朝夕課外・土曜チャレンジセミナーの充実(各教科・学年と連携し内容の検討を行い、柔軟に対応していく。) □長期休業中の補習の充実 □模試分析会の充実(1・2学年は各模試後に毎回分析会を実施。3学年は分析会を実施できない場合でも必ず教科で分析会を実施。学年・教科で課題を共有し、具体的方策を立て授業展開を工夫する。) □ハイレベル模試、個別大模試の推奨		
研修・図書班	□図書(読書)の推進	□図書館移動に伴う図書館業務を精選・工夫する。 □生徒の読書量を増加させる。 □図書館の利用を促進する。 □図書委員合同研修会に積極的に参加する。	□蔵書や物品の梱包作業を早めに計画的に行う。 □他分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成する。 □図書委員会主体で発表会や読書活動の推進等を行う。 □図書委員合同研修会での主体的活動を通して生徒の自主性を育成する。 □図書委員合同研修会で得た成果を、ライブラリーニュース等を通じて全校生徒に還元する。		
	□職員の資質・能力の向上	□教科指導力の向上、特に新学習指導要領に基づいた思考力、判断力、表現力を育むための授業改善に努める。 □多様化する生徒や時代に求められる指導力向上のための研修会の推進を図る。	□教育センター等の外部での新たな学びに関する授業研究やICT教育、人権教育等の研修会への積極的参加を呼びかける。 □外部の研修会に参加して得た成果を各教科・分掌等で共有する。 □授業研究月間(10月)を設け、各教科代表者の研究授業及び相互参観授業を行う。 □授業アンケートを実施することで、生徒の実態や各教科の課題を把握・認識し、授業改善を図る。 □各教科の研究授業指導案を年度共通フォルダ内で管理し、先生方が利用しやすいように工夫する。		
	□人権教育の充実	□全教科・領域で、人権教育に関する目標を年間計画に盛り込み教育活動を行う。 □各学年2回の人権教育の充実を図る。	□全教科・領域における人権教育に関する情報を収集する。 □学年事前検討会を授業実施日の2週間程度前に設定し、十分な準備時間を確保する。 □1年次第1回の教材・資料を現状にあったものに改善する。		
	□教育実習の企画・運営	□教育実習を通して、実習生の人間形成と教師としての資質向上を目指す。同時に、指導担当者の指導力の向上の機会とする。	□大学との連絡をホームページ等を活用し円滑に行う。 □連絡会(朝・夕)を通して、学ぶ意欲を持続させるとともに、実習生としての自覚と責任ある行動を喚起する。 □学校行事等、教育の意義や価値を体験できる場を積極的に提供する。 □教育実習生への指導・連絡の内容について、職員が把握できるよう連絡方法を工夫する。		
生徒指導班	□生徒会活動の充実	□生徒会執行部・各種委員会の年間計画を立てさせ、主体的・体系的に運営させる。 □既存の学校行事(大運動会・三高祭・校内体育大会等)の成功及び学校活性化のための新たな取り組みを行う。	□学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、企画・立案・実行できるよう指導する。 □生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置づけ、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。		
	□基本的生活習慣の確立と問題行動等の未然防止	□特別指導等の問題行動を年間で0件を目指す。 □携帯電話等に関する規定違反件数5件以下を目指す。 □挨拶の励行・時間の厳守・端正な服装を生徒に身に付けさせる。服装頭髪等違反生徒を5%以下とする。	□積極的生徒指導を全職員で行い、問題行動を未然に防ぐ環境づくりを行う。 □携帯電話の校内持ち込みについての確かなルールの下、生徒に指導徹底を行う。外部講師による生徒対象の講演会を実施し、SNSの正しい使用方法等を学ばせる。 □各学年において、定期的に正装点検を行い生徒の規範意識の高揚を図る。 □生徒会執行部・各種委員会・運動部員を中心に挨拶の指導を徹底し、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。		
	□安全教育	□年間の交通事故・事件件数を10件以下を目指す。特にバイク通学者の事故については0件を目指す。	□集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 □生徒対象の研修会を実施する。		
	□部活動の活性化	□部活動加入率を運動部で55%、文化部で25%以上にし、学校生活全般で模範となる生徒を育成する。	□部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 □生徒数に応じた、部活動数の検討を行う。		

項 目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
生徒指導班	□生徒会活動の充実	□生徒会執行部・各種委員会の年間計画を立てさせ、主体的・体系的に運営させる。 □既存の学校行事(大運動会・三高祭・校内体育大会等)の成功及び学校活性化のための新たな取り組みを行う。	□学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、企画・立案・実行できるよう指導する。 □生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置づけ、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。		
	□基本的生活習慣の確立と問題行動等の未然防止	□特別指導等の問題行動を年間で0件を目指す。 □携帯電話等に関する規定違反件数5件以下を目指す。 □挨拶の励行・時間の厳守・端正な服装を生徒に身に付けさせる。服装頭髪等違反生徒を5%以下とする。	□積極的生徒指導を全職員で行い、問題行動を未然に防ぐ環境づくりを行う。 □携帯電話の校内持ち込みについての確かなルールの下、生徒に指導徹底を行う。外部講師による生徒対象の講演会を実施し、SNSの正しい使用方法等を学ばせる。 □各学年において、定期的に正装点検を行い生徒の規範意識の高揚を図る。 □生徒会執行部・各種委員会・運動部員を中心に挨拶の指導を徹底し、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。		
	□安全教育	□年間の交通事故・事件件数を10件以下を目指す。特にバイク通学者の事故については0件を目指す。	□集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 □生徒対象の研修会を実施する。		
	□部活動の活性化	□部活動加入率を運動部で55%、文化部で25%以上にし、学校生活全般で模範となる生徒を育成する。	□部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 □生徒数に応じた、部活動数の検討を行う。		
保健班	□生徒の健康維持増進	□定期健康診断の緊急を要する事後処置(検査・治療)達成率100%とする。 □主体的な生徒保健委員会の活動を目指し、自己指導能力を育てる。	□各検診別未治療者に関して勧告書を発行し、確実に保護者に伝わるよう三者面談で治療勧告を促す。また、担任だけでなく部活動顧問とも連携を図る。 □学校活性化に向け、生徒保健委員会での啓発活動を充実させる。(感染症予防、献血、がん教育等)		
	□安全教育と安全管理の充実	□校内での事故発生率0%とする。	□危険箇所改善や予防に向け、適宜、職場安全チェックを行う。 □救命救急講習会、防災避難訓練の内容を充実させることで、生徒の安全対応能力を育むとともに職員の危機管理能力、資質の向上を図る。(避難経路図の改正等)		
	□環境の整備と快適な学校づくり	□掃除の徹底、ゴミの分別・減量化を図る。 □主体的な美化委員会の活動を目指して、愛校心や思いやりの心を育てる。	□月一掃除の内容を充実させ、行事毎に検討・計画する。(校外清掃活動の実施) □美化委員会を中心にゴミの持ち帰りの徹底や減量化に向けた活動を行う。 (学期ごとのゴミの収集や分別等の呼びかけ活動、美化コンクールの実施)		
	□いじめの未然防止・早期発見	□迅速かつ適切な対応を組織的に取り組む。	□いじめ問題対策委員会を毎月1回は開催することで情報の共有を図る。 □いじめ防止や自殺予防等の取り組みにおいては、適宜、確実に実施する。 (家庭用チェックリストの配布時期の検討)		
	□長期欠席生徒の対策と特別支援の充実	□長期欠席を1%以下とする。 □全生徒が、安心・安全な学校生活を送るための環境整備を行う。	□担任・学年・教科担当・保健室との連携を図りながら迅速な対応を行う。関係医療機関との連携を密にする。 □特別支援コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当者と連携を取りながら、特別支援を要する生徒の把握に努め、全職員で情報を共有していく。(気づき共有シートの実施、活用)		
第一学年	□基本的生活習慣の確立	□中学校までとは違う高校の生活リズムを早く掴ませ、慣れさせる。 □安易な遅刻・欠席・早退をしないようにさせる。 □ルールやマナーを守り、安心安全な環境のもと、充実した学校生活を送らせる。	□遅刻や欠席については、生徒に内発的な変化を促すような問いかけと共に、担任を中心に家庭と密接に連絡を取り合いながら指導する。 □教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる行動(挨拶・時間厳守など)を身に付けさせる。 □端正な服装・頭髪を心掛けさせ、普段から学年の全職員で点検を行う。		
	□豊かな人格の育成	□将来の在り方・生き方について真剣に考えさせる。 □何事にも挑戦する逞しさと相手を思いやる優しさを身に付けさせる。 □集団生活の中で必要とされるコミュニケーション力や道徳性を身に付けさせる。	□学校行事や部活動の積極的な参加を奨励し、活動を通じて達成感や充実感を味わせる。 □総合的な探究の時間やHRを通じて、多様な考え方や価値観に触れ、自分自身を見つめさせる。 □海外語学研修や校外での研修会、ボランティア活動等に取り組ませることで、生徒の自己啓発を図る。		
	□基礎学力の充実	□日々の授業・課外・土チャレを大事にしながら、主体的な学習サイクル(予習→授業→復習)を確立させる。 □平日の平均学習時間120分以上、休日の平均学習時間200分以上を目指す。 □進研模試で平均偏差値50以上を目指す。	□2020年の新課程入試に備え、英語の資格試験に挑戦させるなど、特に英語学習に力を入れさせる。 □総合的な探究の時間などを使って、生徒の進路に対する意識を高めさせ、具体的な目標を設定させる。 □二者面談を数回実施し、文系・理系の選択や学部学科の選択など、個に応じた進路指導を丁寧に行う。 □課題に関しては、提出日と分量に注意しながら、教科間で連絡・調整を行う。 □成績不振者には、適宜きめ細やかな個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。 □学力上位者には、難関大学への受験を意識させる個別指導を行う。		

項 目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第二学年	□ルール・マナーの順守	<input type="checkbox"/> ルールやマナーを守り、安心安全な環境のもと、充実した学校生活を送らせる。 <input type="checkbox"/> 「時を守り、場を清め、身を正す」を実践させる。 <input type="checkbox"/> 爽やかな挨拶ができるようにする。 <input type="checkbox"/> 学校外でもルール・マナーの順守を求める。	<input type="checkbox"/> いじめアンケートや学校生活アンケートで状況把握に努め、早期に対応し、問題の未然防止に努める。 <input type="checkbox"/> 問題が生じた場合は、家庭との連携を密に行うと共に、管理職及び関係職員に速やかに情報伝達を行う。 <input type="checkbox"/> 教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる行動(挨拶・時間厳守など)を身に付けさせる。 <input type="checkbox"/> 年間を通して、学年集会や朝礼・終礼の時間に道徳的な話を行う。 <input type="checkbox"/> 定期的に服装頭髪検査を行う。 <input type="checkbox"/> 外部からの通報を実態把握の一助とし、どう行動するべきかを考えさせる。		
	□中堅学年の役割と自覚	<input type="checkbox"/> リーダーシップと相手を思いやる優しさを身に付けさせることで、上級生を支え、下級生の模範となる。 <input type="checkbox"/> 将来の在り方、生き方について真剣に考えさせる。 <input type="checkbox"/> 「中だるみ」の防止に努める。	<input type="checkbox"/> 学校行事や部活動等への積極的参加を促し、活動及び部長等の立場から、コミュニケーション力や忍耐力、計画性といった力を身に付けさせ、人間形成を図る。 <input type="checkbox"/> HRや総合的な学習の時間等を通して、自己を知り、高い志を持たせる。 <input type="checkbox"/> 安易な欠席・遅刻・早退をしないように指導し、皆勤を目指させる。		
	□学力向上	<input type="checkbox"/> 進路意識を高めさせ、自発的に学習するように指導する。 <input type="checkbox"/> 平日の平均学習時間140分以上、休日の平均学習時間240分以上を目指す。(約170分/日) <input type="checkbox"/> 進研模試における国教英の平均偏差値50以上を維持する。 <input type="checkbox"/> 英語4技能試験への対応を図る。 <input type="checkbox"/> 学力層に応じた教科指導を行う。	<input type="checkbox"/> オープンキャンパスへの参加、出張講義の受講、講義動画の視聴など、進路意識を高めるための様々な指導を行う。 <input type="checkbox"/> 放課後・週末の学校での自学を奨励する。 <input type="checkbox"/> 「生活の記録」から生徒の実態把握に努め、適宜指導・助言を行う。 <input type="checkbox"/> 国教英だけでなく、文系＝社会、医療系・理系＝理科に対する学習意識を高く持たせる。 <input type="checkbox"/> 課題については、教科間で調整を行い、分量と提出日を考慮する。 <input type="checkbox"/> 普段の授業はもとより、GTECの全員受験や英検リスニング・面接対策等を通して、英語の4技能を高める指導を行う。 <input type="checkbox"/> 全体に対して1日1題プリントを実施する。 <input type="checkbox"/> 下位層には査前補講や個別添削指導、上位層には講座を実施し、全体の底上げを図る。		
第三学年	□希望進路の実現	<input type="checkbox"/> 学習時間を確保し、学習への集中力を高め家庭学習の充実を図る。(平日3時間・休日7時間以上) <input type="checkbox"/> 進研模試での5教科平均偏差値50以上を目標とする。 <input type="checkbox"/> 国公立大学合格者50名以上を目標とする。 <input type="checkbox"/> 公務員・就職合格率70%以上を目標とする。 <input type="checkbox"/> 生徒の進路意識の高揚を図る。	<input type="checkbox"/> 生活の記録を活用しながら、学習時間・学習内容などを指導する。 <input type="checkbox"/> 校内での生徒の自学を支援する場の提供を行う。(教室・講義室など) <input type="checkbox"/> 外部模試や各種講習を案内し、希望者が利用できるようにする。 <input type="checkbox"/> 校内での勉強会や講座等を企画・実施し、モチベーションと学力の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 二者面談等を有効に活用し、情報提供および進路実現に向かう環境作りに努める。 <input type="checkbox"/> 小論文・面接指導については、全体で協力しながら行う。 <input type="checkbox"/> 年間を通して二者面談・個別指導をこまめに行い、希望進路の確認・助言を細かく行う。		
	□最上級生としての自覚	<input type="checkbox"/> 大運動会の中心となり、リーダーシップ・フォロワーシップを発揮し、下級生の模範となるよう指導する。 <input type="checkbox"/> 生徒に主体性に考え計画・行動させ、「自治」を体現させる。	<input type="checkbox"/> 部活動・学校行事において、学年全体・学校全体で取り組む雰囲気づくりに努める。 <input type="checkbox"/> 状況に応じて的確なアドバイスをし、自らの力で乗り越えさせるようにする。 <input type="checkbox"/> 学校行事や部活動、受験勉強を通して、何事にも挑戦する逞しさを育成する。		
	□豊かな人格の形成	<input type="checkbox"/> 将来にむけた規範意識と社会性を涵養する。 <input type="checkbox"/> 集団におけるルールの必要性を身につけさせるとともに、周囲の人の支えに感謝させる。 <input type="checkbox"/> 生命の大切さを常に考えさせる。	<input type="checkbox"/> 全ての教育活動を通して、自ら考え判断し、適切に行動できる行動力を育成する。 <input type="checkbox"/> 自分の行動が周囲に与える影響について考えさせ、良い方向にリードする存在であるよう指導する。 <input type="checkbox"/> いじめアンケート・学校生活アンケートを活用し、生徒に思いやり・公正さ・正義感を身につけさせ、魅力ある人間について考えさせる。 <input type="checkbox"/> 交通事故を未然に防ぎ、自分の命・他人の命を守るために、交通ルールの遵守は絶対であることを強調する。		